

令和5年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目 標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

「笑顔」「元気」「学び」

～ 志を高め 学び継ぐ ひとづくり ～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場で必要な人材を育成していく「ひとづくり」が不可欠になっています。

そのために第3期基本計画においても第2期基本計画を継承し、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆ 目指す姿

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 生涯学習の姿 | 生き生きと学ぶ町民 |
| 2. 家庭・地域の姿 | 明るい家庭 支える声が響く地域 |
| 3. 子供の姿 | 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供 |
| 4. 学校・教職員の姿 | 信頼される学校・教職員 |

◆ 教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と令和5年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】 生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ① 公民館を起点とした「にぎわい創出」の自主事業展開
- ② 「本館」と「絵本と学びのへや」を活用した図書館事業展開
- ③ 「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供、PR活動
- ④ 公民館主催「土曜子供塾」

令和5年度重点的取組

施 策	(3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり
主な具体策	③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供、PR活動 ④公民館主催「土曜子供塾」
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・働きながら大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、さまざまな目的で、幅広い年代や職業の人達が生涯にわたって学び続けることで人生をより豊かにする。 ・大河原町小中学校の通塾率では、小学6年生が24%、中学3年生が43%であり、小学校6年生の約7割、中学3年生の約6割が塾に通っていない状況にあることから、塾に通っていない児童生徒に学習機会を提供し、学力向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・放送大学と連携を図り、啓発活動を通じて、放送大学の強みと言える多彩な授業スタイルや、資格取得とキャリアアップを図る社会人等のニーズに応える広報を行なう。 ・中央公民館と金ヶ瀬公民館で、小中学校の児童生徒に学習機会を提供する。参加児童生徒の自学自習への学習指導及び子供の話し相手としてのサポートを図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	「公民館・図書館の充実」に対する満足度（5段階評価）	3.4	3.4	3.8
2	中央公民館年間来館者数	14、139人	20,870人	33,000人
3	金ヶ瀬公民館年間来館者数	10、748人	6,485人	12,000人

4	駅前図書館来館者数	23.862人	18.013人	46.000人
5	放送大学利用者数	41人	59人	80人

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none">令和4年度からの新規事業として、中央公民館、金ヶ瀬公民館で「土曜子供塾」を開講し、小学5年生から中学3年生の学習機会の提供に努めた。児童生徒は、教科書や問題集を持参し、自学自習を行い、分からない問題がある時はコーディネーターの先生や大学生に教えてもらい、学力向上を図った。 ※受講者数〔中公:小20人、中19人〕・〔金公:小6人、中3人〕 (中学3年生の参加者は全員志望校に合格)公民館主催事業として「わくわく親子昆虫教室」「おおがわら歴史学講座」など町民の教養向上に資する講座の開催や、絵本と学びのへやを利用して「お話し会」など子どもの心の成長などの事業展開に努めた。新たに「金ヶ瀬中学校吹奏楽部・合唱団オータムコンサート」を主催し、地域の活性化、コミュニティづくりに努めた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">未就学児から高齢者まで生涯にわたり学ぶことができる環境の構築が必要であるとともに、新たな仲間づくりの輪を広げる場が求められている。事業運営のボランティアの応募者は少数にとどまっており、ボランティアの継続と育成が課題である。	
内部評価	A	目標を上回って達成した
B	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>□新規事業として始まった「土曜子供塾」に参加する児童生徒の数が増えており、また、教職経験者等の支援のもと充実した学習が行われ、塾に通っていない児童生徒の受け皿として大きな成果を出しています。今後は受け入れ体制の拡充も必要になってくると思われます。</p> <p>□「わくわく昆虫教室」事業の歴史は長く、親子が楽しみにしている教室として定着しています。ICT教育の時代だからこそ、実体験中心の本事業をさらに継続充実させてほしい。</p> <p>■運営ボランティアの応募については、後継者確保や高齢化に対応するためにも、学校を活用して保護者に呼び掛けるなど募集方法を工夫してほしい。</p> <p>◇「土曜子供塾」に参加した中学生3人の志望校全員合格は大変喜ばしいことです。今後参加した子供達の喜びの声を広めつつ、尚一層受講者が増えることを期待します。</p> <p>◇「金ヶ瀬中学校吹奏楽部・合唱オータムコンサート」の取り組みが素晴らしいです。金ヶ瀬地区のコミュニティづくりとさらなる活性化につながっていくものと思われます。</p>	

凡例

- プラス評価・意見等
- 改善点等の評価・意見
- ◇プラス評価・意見等
- ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施 策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
- ⑧郷土愛を育む「親子町内史跡巡り」等の開催

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進、文化財展示室の設置 ⑧郷土愛を育む「親子町内史跡巡り」等の開催
目的・目標	・町内の自然、風土、歴史、文化的遺産などの文化財を地域全体で継承するとともに、貴重な学習資源ととらえ、郷土愛を育む社会教育活動に活用する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財、伝統文化を守り育てるとともに次世代に継承していくため、住民参加の事業を実施し住民の歴史、文化の理解を深める。佐藤屋プロジェクトと連携しての企画展、文化財講演会、古文書解説講座、歩いて石碑めぐり講座、親子対象の史跡めぐりを開催し、事業推進を図る。 ・町内の文化財説明看板にQRコードを設置し、文化財を紹介する映像や音声解説を見ることができる動画を制作する。解説者がいなくても容易に理解しやすく、文化財めぐりの講座などでの活用していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	「芸術文化・文化財」に対する満足度（5段階評価）	3.5	3.5	3.8
2	文化財企画展・講演会来場者数	255人	260人	300人
3	無形文化財団体の活動機会の充実	3回	2回	6回
4	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	実施	継続して実施

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学東北アジア研究センターの協力の下、町内の旧家や町教育委員会所蔵の古文書の調査、研究を継続的に実施し、歴史資料の保存に努めるとともに、所蔵品を活用して「初めての古文書解説講座」「文化財パネル展」「文化財講演会」を開催し、文化財の継承や周知広報に努めた。 また、新規事業として「親子で文化財めぐり」を開催し、郷土の文化財について親子で学ぶ機会を提供した。 ・町指定無形文化財である「小山田やすとこ」、「堤神楽」の記録保存を行い、町ホームページで公開を行ったほか、ポスター及びチラシを作成し、関係機関や町内各施設に配布を行い、町の無形文化財について関心を促し啓発を図った。
-----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術を身近に鑑賞する「青少年劇場小公演（小中学生）：オーボエとヴァイオリン デュオコンサート」を開催し、生の音楽芸術体験の機会を提供し、青少年の豊かな人間形成を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 町の詳しい歴史を知る町民が減り続けているほか、文化財専門職員もいないため、町の文化財保護や伝承活動が年々停滞している。 文化財講演会や文化財パネル展、佐藤屋プロジェクトの共催企画など、多くの町民に文化財への関心と郷土愛を育む事業を実施していく必要がある。 民俗収蔵室の解体後、民俗収蔵品の公開ができていない状況にあるため、今後の方向性や施設整備について検討していく必要がある。 圏域文化活動の中心となる仙南芸術文化センターの運営、施設管理、維持機能修繕への負担額が増加している。えずこホールの企画する住民グループ支援、体験事業、鑑賞事業の周知を図り、町民の文化芸術推進を図る。
内部評価	A 目標を上回って達成した
	B 目標をほぼ達成した
	C 目標をやや下回った
	D 目標を下回った
外部評価	<p>□所蔵品を活用した展示会や講座、講演会等、文化財の継承や周知広報が多岐にわたって行われており工夫が見られます。</p> <p>□「小山田やすとこ」「堤伸楽」は、学校教育の中の指導内容にも組み込まれており伝承に向けた取り組みが充実しています。コミュニティ・スクールの取組の一環としても評価できます。</p> <p>■貴重な古文書については、劣化が進まないような工夫をすると共に、デジタル化保存を進めるのも方法の一つであると考えます。</p> <p>■民俗収蔵室に展示されているものは、学校教育の体験学習の観点からも必要性が高く、学校施設を含めた施設設備の検討が必要であると考えます。</p> <p>◇新規事業「親子で文化財めぐり」は、町民が親子で町の歴史を肌で感じ、関心を高めることのできる素晴らしい取り組みです。今後さらに参加者が増えることを期待します。</p> <p>◇町の無形文化財の記録保存について、QR コードの設置や動画の制作など、様々な形で文化財に触れる機会ができたのは大変意味のある取り組みです。幅広い世代に活用してほしいと願います。</p> <p>◆民俗収蔵室の解体により、収蔵品の公開が滞っているため、建物等の設置環境を整え町民が町の歴史を感じられるようになることを期待します。</p>

凡例

□プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

2. 家庭・地域の姿 【目標】 明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向 3 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施 策

- (1) 地域学校協働活動の充実
- (2) コミュニティ・スクール事業との連携
- (3) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり
- (4) 部活動の地域移行促進

主な具体策

- ⑨コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に向けた支援
- ⑩ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
- ⑪放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
- ⑫子ども会育成会連絡協議会の活動支援
- ⑬部活動地域移行促進

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 地域学校協働活動の充実
主な具体策	⑨コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に向けた支援 ⑩ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
目的・目標	・町内小中学校全てに設置されたコミュニティ・スクールと地域学校協働本部が連携し、地域全体で子供達の学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指した取り組みを推進する。
重点的取組	・地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの連携を図るとともに、目的の共有、広報、普及活動に努める。 ・教職員を対象とし、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「地域とともにある学校」への転換を図るための研修会を開催する。 ・学校支援ボランティア登録者の活動場面の設定と新規登録の拡充促進を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	地域学校協働本部の活動支援数	1 回	1 回	5 回
2	ボランティアバンク登録者数 (個人)	55 名	59 名	150 名
3	ボランティアバンク登録者数 (団体)	3 団体	3 団体	5 団体
4	放課後子供教室の実施率	68%	96%	85%

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度も地域学校協働本部「ネットワーク会議」を開催し、各学校のコミュニティ・スクールとの連携を更に強化し推進を図った。ネットワーク会議では、仙台市山田市民センター館長 真壁直人氏（前仙台市立住吉台中学校長）を講師に迎え、小中連携によるCSの取組と地域学校協働活動の事例の講話をいただき研修を行った。また、金ヶ瀬小学校と金ヶ瀬中学校の取り組み状況を発表していただき、情報共有を図った。 ・大河原中学校、金ヶ瀬中学校と連携して2学年で「職場体験学習」、1学年で「職
-----------	--

	<p>業人に聴く会」を開催し、地域の受入れ可能事業所の調整を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティアの活動については、学校からの依頼により活動を行っている。「読み聞かせ」「ピアノ伴奏」「堤神楽の指導」など、学校における学校支援ボランティアの存在は大きいものと感じている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民の当事者意識、学校の協働意識の高揚を図るため、目標の共有に繋がる対話の場、連携の場の取り組みを図る。 学校支援ボランティア活動に向け、各学校の現状把握と地域ボランティアの個人並びに団体の確保、支援が必要となっている。 	
内部評価 B	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 B	<p>□コミュニティ・スクールが、町内5校に定着してきたことは大きく評価できます。既存の地域や各種団体との関わりを改めて見直すことからスタートし、そして、運営協議会の委員に、各地域、団体等の代表が入ることにより、地域や各種団体同士のつながりも構築され、これまでの既存の活動に幅が出てきました。その様子が、各校の諸活動から見えます。今後も、学校・家庭・地域の協働の推進による「地域と共にある学校」を目指した取組みに期待しています。</p> <p>■コミュニティ・スクールの取組から構築されたつながりや新たな活動が、学校内だけで展開されるのではなく、そこに地域の方々を参加させたり学校が地域に積極的に入り込んだりしていくように広がりをもたせていくことが、生涯学習や地域発展にもつながると考えます。</p> <p>◇「ネットワーク会議」において仙台市の市民センター長を招き、コミュニティ・スクールや協働活動の研修を行えたことは大変意味のあることです。情報を共有し、研修を活かした今後の取組みに期待します。</p> <p>◇「職場体験」や「職業人に聴く会」の継続開催は素晴らしいです。生徒が肌で社会を感じる大変貴重な機会です。今後も地域と共にある学校作りをすすめてほしいと願います。</p> <p>◇放課後子供教室の取組みは大変素晴らしいです。各校、それぞれの特徴を活かし、児童の夢中になれる充実した時間を作ってほしいと期待します。</p> <p>◆地域ボランティアの呼びかけの工夫が必要かもしれません。町民が様々な形で教育活動に興味を持ち、学校支援ボランティアとして活動していける環境作りに期待します。</p>	

凡例

□プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 4 家庭・地域の学びや活動の支援

施 策

- (1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ⑭学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ⑮駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ⑯中学生を対象とした子育て理解講座の開催
- ⑰子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
主な具体策	⑭学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催 ⑰子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援
目的・目標	・子供を地域全体で育むために、家庭と地域、学校・保育園等をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動をととして、家庭・地域の教育力向上を図る。
重点的取組	・町内の小中学校、町立保育所、私立幼稚園・保育所、幼児児童施設の子育て講座の開催、周知を図り、多くの子育て世代への学び支援を図る。また、希望する内容については、さまざまな分野の取組みを紹介し、選択の幅を広げ、推進する。 ・子育て支援を行なう子育てサポーター養成を積極的に行い、家庭教育支援の体制を整えていく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	家庭教育講座実施数	10講座	14講座	20講座
2	子育てサポーター養成講座 参加者数	36名	28名	50名
	大河原子育てサポーター「笑」 会員数	12名	13名	15名
3	「絵本と学びのへや」での家庭教育 事業参加者数	100名	135名	150名

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内保育所（園）、幼稚園、児童館、児童センター、小中学校において「子育て親育ち講座」を開催し家庭教育向上に努めた。事業終了後の参加者アンケートは、好評であり小さい子を持つ親の心に響いたようだ。また、各施設担当者からも今後も生涯学習課にお願いしたいと感謝を頂いている。 ・「子育てサポーター養成講座」は人材育成事業として重要な位置づけとしている。家庭教育や子育てに悩む親を地域全体で支援する環境づくりとして、子育てサポーターサークルの会員増を図っている。2023年度受講者から
-----------	---

	<p>1名子育てサポーター「笑」への加入があった。また、生涯学習ガイド等を活用したサークル会員募集の周知も行っている。</p> <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てサポーターサークル「笑」との連携や活動支援を行っているが、会員の高齢化や新たな会員の確保が課題となっており、引き続き子育てサポーター養成講座受講者等への呼びかけを行っていく。 	
内部評価 B	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価 B A	<p><input type="checkbox"/> 核家族化、SNS の普及により、子育て親が学ぶ場、情報共有の場が減っており、子育てに不安を持つ親が増えていると思います。そういった中、「子育て親育ち講座」は、子育ての不安解消やノウハウを学ぶいい機会となっており、親からすればとてもありがたい事業だと思います。</p> <p><input type="checkbox"/> 「子育てサポーター養成講座」受講者から1名が会員になったことはとても喜ばしい成果と言えます。今後も会員増に向けての周知と、継続開催をしてほしい。</p> <p>◇ 「子育て親育ち講座」の開催は、子育て中の親にとって大きな励みとなるものです。感謝の声が届いたのも大変嬉しいこと。今後も親の心に響く事業の開催に期待します。</p> <p>◆ 1人親家庭や月齢の小さい子育て中の親なども参加しやすいよう、託児スペースを設けるなど、さらに子育てしやすい町になってほしいと願います。</p>	

凡例

□ プラス評価・意見等

■ 改善点等の評価・意見

◇ プラス評価・意見等

◆ 改善点等の評価・意見

◆基本的方向 5 地域の発展につながる多様な学びの提供

施 策

- (1) 時代に即したかつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
- (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ⑮公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
- ⑯ジュニア・リーダーの育成と活動支援
- ⑰青年会活動への助言と活動支援
- ⑱地域資源(人的・物的資源)を生かした昆虫展の充実
- ⑳高齢者のための生きがいづくり事業の推進
- ㉑町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
- ㉒市民団体(NPO等)との協働・活動支援

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 時代に即したかつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	<ul style="list-style-type: none"> ㉑ 地域資源(人的・物的資源)を生かした昆虫展の充実 ㉒ 市民団体(NPO等)との協働・活動支援
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術、その他さまざまな生涯学習に関する知識や経験、技能を活かすことのできる人材を発掘し、支え、協力し、地域が活性化される活動をサポートするとともに、柔軟に連携させながら地域をまとめていくリーダー、リーダーを支える人材の育成を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化を共有し、マスコミ等を活用しながら積極的に情報発信し地域活動のPR、事業への参加者の拡大を図る。 ・生涯学習の講座からサークル、団体の誕生を目指し、住民の皆さんが出会う「きっかけ」の場として講座やイベントの開催を図る。 ・地域資源を最大限に生かした「昆虫展」を開催する。充実した昆虫標本の展示に加え、昆虫とのふれあいコーナー、小学生の昆虫の絵コンクールなどの魅力発信に努める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	昆虫展来館者数	781人	985人	900人
2	講座からの新規社会教育団体の発足	1 団体	0	3 団体
3	文化協会加盟団体の促進	44 団体	46 団体	50 団体
4	ジュニア・リーダーの会員数	21 名	18 名	25 名
5	学校開放の年間利用団体数	56 団体	49 団体	70 団体

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界・日本の大昆虫展」「昆虫の絵コンクール」については、コロナが落ち着いてきたこともあり通常通りの企画展開催を行った。 期間中、多くの来場者があり、昆虫を“見る、触れる、学ぶ”を通して自然に対する興味関心を醸成することができた。
-----------	---

	<p>また、2023 年度は新規として巨大昆虫写真パネルと SNS に対応できる昆虫パネルを設置したことにより、来場した親子にとっても喜んでいただき、昆虫への興味・関心を深めていただいたと捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故渡部徳氏からご寄附いただいた貴重な地域資源を最大限生かし、「世界・日本の大昆虫展」のほか、町内小中学校 5 校を巡回する「移動昆虫展」を開催したことで、ほとんどの児童生徒が休み時間、昼休み時間に見学してくれた。 ・世界・日本の大昆虫展は、人的な地域資源である「大河原昆虫同好会会員」を講師に迎え、来場者への解説を行っていただいた。昆虫展の開催を心待ちにしていた親子も多く、企画展には満足いただけたと捉えている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫同好会のようにノウハウと知識を持った民間団体の協力が必要である。同好会の継承基盤を確保するため、地域支援者養成の支援を行う。 ・昆虫展を夏休みの大人気イベントとして定着させるため、更に昆虫看板の追加作成や、創作コーナーなど、趣向を凝らして昆虫展を充実させる。 								
内部評価	<table border="1"> <tr> <td>A</td><td>目標を上回って達成した</td></tr> <tr> <td>B</td><td>目標をほぼ達成した</td></tr> <tr> <td>C</td><td>目標をやや下回った</td></tr> <tr> <td>D</td><td>目標を下回った</td></tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った
A	目標を上回って達成した								
B	目標をほぼ達成した								
C	目標をやや下回った								
D	目標を下回った								
外部評価	<p>A</p> <p>□町内 5 校を回る「移動昆虫展」は大好評だったという話をたくさん聞いています。これは大きな成果であり、今後も、学校施設を使った事業を他にも検討していいと考えます。</p> <p>□「昆虫展」来館者数が目標値を大きく上回ったことはかなり評価できます。そのノウハウをしっかりと受け継ぎ、今後の更なる成果も期待しています。</p> <p>■親子会、地区子供会の活動が減少、縮小している今、ジュニア・リーダーの活躍の場も減ってきている。それが会員減に深く関係していると考えます。活躍の場を増やす工夫や地域、事業との連携が求められます。</p> <p>◇「世界・日本の大昆虫展」、子どもを中心に本物にふれる機会があるのは本当に素晴らしいことです。企画・展示内容も工夫されているので、今後もさらなる来場者の集客に期待します。</p>								

凡例

□プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向6 【笑顔】豊かな心の育成

施 策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) おおがわらの歴史や文化にふれ、郷土愛を育む教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ㊸ 10歳のつどいや立志式、職業人の話を聴く会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ㊹ 「全学級道徳の日」を中心とした道徳的实践力の育成
- ㊺ 防災訓練等を通じた自助・共助の实践力の育成
- ㊻ 早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実と研修会の実施
- ㊼ 町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ㊽ おおがわらの暗唱読本、社会科副読本事業、おおがわらの先人集の活用継続と改訂
- ㊾ 学校司書補助員、駅前図書館、暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	㊸ 10歳のつどいや立志式、職業人の話を聴く会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	・夢や志をもち、将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	・総合的な学習の時間や学校行事等でおおがわらの先人集を活用するとともに、志集會等、職業人の話を聞く機会を設けるなどして、児童生徒の夢や志を高め、それを実現しようとする態度を育てる。

施 策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
主な具体策	㊹ 「全学級道徳の日」を中心とした道徳的实践力の育成 ㊺ 防災訓練等を通じた自助・共助の实践力の育成
目的・目標	・「全学級道徳の日」をはじめ、道徳の授業を通して、児童生徒の道徳的实践力の育成を図る。 ・防災・避難訓練等を通じて、自他の命を守る知識を身に付け、行動できる子供を育成する。
重点的取組	・各校で「全学級道徳の日」を設定し、命の大切さやいじめ撲滅等をテーマにした道徳の授業を実践する。 ・各学校の実状に合わせた防災安全マニュアルの見直しを行い、学校・地域に応じた防災避難訓練やボランティア組織の活用を促す。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」 将来の夢や目標を持っていますか。(「当てはまる」の割合)【小6、中3対象】	小 66.3% 中 46.7%	小 64.9% 中 46.3%	小 80% 中 50%

2	全国調査「児童生徒質問紙」 自分にはよいところがあると思 いますか。（「当てはまる」 の割合）【小6、中3対象】	小 4 1. 3 % 中 3 3. 5 %	小 4 3. 8 % 中 3 1. 8 %	小 6 0 % 中 4 0 %
3	おおがわらの暗唱読本、社会科 副読本、おおがわらの先人集の 改訂	社会科副読本改訂 ・増刷	令和5年度は 改訂増刷なし	暗唱読本（'25） 先人集（'26） 社会科副読本（'27）
4	町内小中学校図書貸し出し数 の増加（年間一人当たり平均）	小6 5. 0冊 中 1 0. 6冊	小 5 9. 8冊 中 8. 2冊	小 7 0冊以上 中 1 2冊以上

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none">・町内5校すべての学校で、保護者参観のもと「全校道徳の日」を実施することができた。・将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合が、昨年度よりやや下がったが、全国平均より小学生は4.1ポイント、中学生は6.9ポイントそれぞれ上回る結果となった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・全国調査「児童生徒質問紙」における「自分にはよいところがあると思いますか」の設問に対する「あてはまる」と回答した中学生の割合が昨年度に比べて減少し、全国平均に比べて5.4ポイント下回る結果となった。日頃から互いの良さに目を向ける活動の充実を図る指導を行いたい。・年間図書貸出冊数は昨年度よりやや減少した。図書司書の方と各校図書委員会で連携して、新しい図書購入の際にアンケートを実施して児童生徒にとって魅力的な図書を購入したり、図書紹介の活動を充実したりさせて、貸出冊数の増加を図りたい。	
内部評価	A	目標を上回って達成した
C	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>□「全学級道徳の日」の実施は、親、子供、担任、そして学校が同じ視点で同じ空間で「命」や「いじめ」などについて一緒に考える絶好の機会であり、いじめの減少につながっています。このまま継続してほしいと考えます。</p> <p>□防災の日の町ぐるみ防災訓練はいい形で定着してきました。地域を挙げての取組が自助・共助の実践力の育成に結びついています。また、地域のつながりを深める機会になっていると考えます。</p> <p>■図書貸出数が減っていることは課題です。大規模校では、借りたくても曜日やその日の時間制限があり、時間内に借りられない児童が多いと聞きます。貸し借りをチェックする機材（バーコード読み取り）や担当スタッフの数を増やすなど、貸出体制を物理的に改善してみてもいいでしょうか。</p> <p>◇保護者参観のもと「全学級道徳の日」を継続して実施していることは大変素晴らしいことです。親と子が命や心の大切さについて一緒に学び、考える時間は大変意味のあることと考えます。</p> <p>◆「自分にはよいところがある」と思える児童生徒の減少について、子供が生涯に渡って自己肯定感を持ち続けられるように一人ひとりに寄り添って褒め、子供を支えてほしいと願います。</p> <p>◆校内の蔵書を教室や廊下など図書室以外のスペースにも設置するなど、各校で児童生徒が本を手に取りやすい環境を作ることに期待します。</p>	

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 7 【元気】健やかな身体の育成

施 策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ③②「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ③③給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ③④仙台大学との連携事業、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

令和5年度重点的取組

施 策	(3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	③④仙台大学との連携事業、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	・体育の授業等での効果的な運動、部活動を通じて、生涯を通じて体を動かすことが好きな児童生徒を育成する。
重点的取組	・仙台大学と町内3小学校との体力づくり連携事業等を実施し、効果的な体力・運動能力の向上を図るとともに、運動好きな児童生徒を育成する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか【小6、中3対象】	小 83.7% 中 76.2%	小 88.6% 中 77.1%	小 90% 中 85%
2	※全国調査「児童生徒質問紙」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減【小5、中1対象】	小 45.7% 中 55.6%	小 32.7% 中 64.4%	小 30% 中 40%
3	小学校3校における仙台大学との体力づくり連携事業の実施	県の委託事業による実施	町独自財源による実施	町独自財源による実施
4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする【小5 中2】	小男 -4.3 女 +1.5 中男 -0.1 女 -0.6	小男 -0.6 女 +0.1 中男 +6.0 女 +11.7	小中 男女とも ±0

※現在の全国調査には、この項目はないため、2023年度は町独自の調査による参考値である（本町の調査では、小中学校とも全学年を対象としている）。

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合については、小学生男子以外は全国平均を超えることができた。特に中学生女子は大きく上回った。今後も仙台大学との体力作り連携事業を通じて、運動の楽しさを味わわせ、積極的に運動に親しむ児童生徒の育成を図りたい。 ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合が増加した。この割合をさらに上げるとともに、睡眠時間の増加にも取り組み、健全な日常生活を送る児童生徒を増やす取組を続けたい。
-----------	--

	<p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム・携帯を2時間以上使用している児童生徒の割合が年々増加し、小中学生の約半数前後に及んでいる。家庭の協力を得ながら、子供たちに家庭での過ごし方について考えさせる指導を継続する必要がある。 ・メディアの適切な使用について、各校で児童生徒による話し合い、保護者・地域の代表の方との話し合いを通して、町全体としてメディアの適切な使用に向けた取組を進めていく。 	
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>A</p> <p>□仙台大学との連携事業が県の委託事業から町独自の財源による事業に移行されて2年になりますが、運動の楽しさを学びながら体力の向上が図られるとともに教員の指導力向上にも大きくつながっていると考えます。専門家の演技を直に見る機会に恵まれています。また、全国体力運動能力テストの値も目標値を上回っていることも評価できます。</p> <p>□ゲームやスマホの使用については、児童生徒自らが考え、「明日青」の場で宣言するやり方は見事な取組である。今後も、このような主体的な取組を続け子供たちの生活改善につなげてほしい。</p> <p>◇仙台大学との連携が運動に親しむ児童生徒の育成につながり、評価の上昇に表れたものと思われます。今後も連携を取りながら体を動かすことの楽しさを身に付けられるよう継続して取り組むことに期待します。</p> <p>B</p> <p>◇朝食を毎日食べる児童生徒の増加は大変喜ばしいです。給食の時間を通してなど、食べることの大切さを学び続けてほしいと思います。</p> <p>◆朝食をとらない子供の実態（原因や家庭環境など）を把握することも大切かもしれません。</p> <p>◆ゲーム・携帯を2時間以上使用している子供が年々増加する傾向にあります。便利な一方、長時間使用することに対する危機感を持ち、適切な使い方について子供同士が話し合える場を設けるなどの工夫も必要かもしれません。</p>	

凡例 □プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 8 【学力】確かな学力の育成

施 策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

主な具体策

- ③⑤学力向上策「対話的な学び」のある授業と「指導と評価の一体化」の推進
- ③⑥全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための全国学力調査問題の活用
- ③⑦おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続
- ③⑧暗唱読本、「小学生の英単語ノート」等を活用した言語活動の充実
- ③⑨外国語教育充実に向けたA L T 配置の継続と活用の充実
- ④⑩ I C T 教育への先進的取組(タブレットの充実活用と I C T 支援員配置による)

令和5年度重点的取組

施 策	(1) 基礎的・基本的な学習の充実
主な具体策	③⑤学力向上策「対話的な学び」のある授業と「指導と評価の一体化」の推進
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を取り入れ、授業の改善を図る。 ・学習評価P D C A サイクルを確立し、教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。 ・年間評価計画に基づいた「指導と評価の一体化」を推進する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査問題(過去問)等を取り入れた年間評価計画の作成と、それに基づいた実践を行う。 ・年3回の学力向上推進委員会の開催を通して、1年間のスパンを踏まえた学習評価P D C A サイクルを確立する。 ・少人数学級の実現や教科による少人数学習等のきめ細かな指導をおこなうため、町内小中学校に任期付き教員(町採用教員)を継続配置する。
施 策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	③⑨外国語教育充実に向けたA L T 配置の継続と活用の充実
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・外国語教育、国際理解教育の充実及び情報通信教育の推進により、子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における英語・外国語活動の充実に向け、継続してA L T を配置する。 ・外国の学校との交流活動を促進することで、多様な価値観や広い視野をもった人材を育成する。 ・小学5、6年生で英単語ノート「小学生の英単語」の活用を図る。 ・タブレットP C の活用やプログラミング教育を推進することで、児童生徒の情報活用能力や論理的な思考力を向上させ、「主体的で深い学び」による学力向上の一助とする。 ・おおがわらさくら祭りに向けた小学生英語ガイドを養成し、英語に親しむ機会を設ける。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(国語の全国比)【小6、中3対象】	小 + 1.4 中 ± 0	小 + 7.8 中 + 0.2	小中 ± 0 以上

2	全国調査の平均正答率の乖離をプラスにする(算数・数学の全国比)【小6、中3対象】	小 - 1.2 中 - 3.4	小 + 4.5 中 - 5.0	小中 ±0以上
3	各小中学校での年間評価計画の作成・活用	—	印刷配布 実施	実施
4	算数チャレンジ・数学オリンピックへの参加児童生徒数	小 78人 中 30人	小 90人 中 36人	小 100人 中 50人
5	A L T活用による「おおがわら桜まつり」等における小中学生の英語ガイドの育成	—	実施 (8人)	実施

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none">・全国調査において、小学校は平均正答率が国語・算数ともに全国平均を大きく上回り、全国トップクラスの結果となった。・年間評価計画の製本・配布が完了した。各校の校内研究に位置づけるなどして、児童生徒の学習状況を適切に把握し、授業改善を進める PDCA サイクルを推進していく。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・タブレット端末の活用において、町内の各校で差が見られた。GIGA スクール推進委員会で効果的な活用を共有し、各校で研修を実施して、プログラミング教育を軸に、タブレット端末の効果的な活用を広げていく。	
内部評価	A	目標を上回って達成した
B	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	<p>A</p> <p><input type="checkbox"/> 「対話的な学び」については、町内校長会をはじめ、教務、研究主任会等の会議で各校の取組の成果と課題を確実に共有し、5校が同じ方向を向いて進めていることが、結果として数値に表れており大きく評価できます。</p> <p><input type="checkbox"/> 町で予算化された年2回の学力テストの実施をもとにした学習評価のPDCAサイクルが確実に定着し、町の小中学校の学力の向上に成果として表れています。</p> <p><input type="checkbox"/> 年間評価計画を先生方自ら作成し、活用し始めた意義は大変大きい。朱書きを加えながらさらにいいものにし、確実な「指導と評価の一体化」を目指し推進してほしい。</p> <p>■学力向上の成果を維持するためには、各事業の継続と各学校での授業づくりの確実な継承が必要であると考えます。</p> <p>■タブレットの活用が定着してきたことは大きく評価できる。しかし、安易に活用する先生が増えないように、考える力が身に付き深い学びにつながるような活用の仕方を常に追求し、研修してほしい。</p> <p>◇学力調査においての正答率が大変よい結果となっています。「対話的学び」が「深い学び」へとつながり、素晴らしい結果に表れているのだと思います。今後も子供の気持ちに寄り添った指導を継続されることを期待します。</p> <p>◇「小学生の英単語」の活用は大変意味のあることです。副読本「寿限無」のように大いに活用し、児童生徒の力となっていくことを期待します。</p>	

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向 9 学校組織力の向上

施 策

- (1) チーム学校による創意・活力に満ちた学校づくりの推進
- (2) 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進
- (3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

- ④①学校評価を中核にしたカリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進
- ④②「子どもが行きたくなる学校づくり」推進
- ④③幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートプログラムの実践
- ④④コミュニティ・スクール活動の充実 ※生涯学習との連携

令和5年度重点的取組

施 策	(2) 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進
主な具体策	④③幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートカリキュラムの作成
目的・目標	・幼稚園・保育所・小学校間での連携を密にするとともに、小学校におけるスタートカリキュラムを実施することで小1プロブレムを緩和する。
重点的取組	・小学校新1年生がスムーズに学校生活や学習活動に入れるよう、小学校におけるスタートカリキュラムを年間計画に位置付け実施する。

※小1プロブレム 小学校新1年生が集団行動をとれない、授業中に座ってられない、教員の話を聞けないなどの学校生活になじめない状態

施 策	(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進
主な具体策	④④コミュニティ・スクール活動の充実
目的・目標	・学校・保護者・地域の連携による「地域とともにある学校づくり」を推進するため、令和4年度に全校に設置したコミュニティ・スクール(南小は令和3年度から)をより充実させる。
重点的取組	・地域とともにあるコミュニティ・スクール事業の推進及び体制の構築を図る。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	38.1%	37.8%	45%
2	全国調査による「児童生徒質問紙」学校に行くのは楽しい。 (「当てはまる」と回答した割合の全国比)	小 +4.8 中 -2.6	小 -0.1 中 -8.3	小 +5以上 中 ±0以上

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から町内すべての学校にコミュニティ・スクールが導入され、年2～3回の学校運営協議会を開催した。徐々にコミュニティ・スクールが浸透し、話し合いの深まりが見られてきている。
-----------	--

	《課題》 ・全国調査による「児童生徒質問紙」で学校に行くのは楽しいという設問に「あてはまる」と回答した児童生徒の割合が減少した。対話的な学びを軸とした授業づくりを推進し、コミュニティ・スクール事業を効果的に活用した体験活動を取り入れるなど、児童生徒にとって魅力的な学校づくりの推進を図る。	
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	□町内5校がコミュニティ・スクールを導入して3年目を迎え、各校の工夫によりいい形で浸透してきたことは評価できます。地域や人、モノをつなぎながら、学校運営協議会が学校にとっての大きな力となるように今後も期待します。 ◇コミュニティ・スクールの導入に伴い、地域と一体となって子供を育てるという考えが少しずつ浸透してきているように思います。今後もコミュニティ・スクール事業を効果的に取り入れ、地域で子供を支えていける環境づくりに期待します。 ◆「学校が楽しい」と思える児童生徒の減少について、学校が苦手な子供でも（学校に）行きたくなるような契機を作り、受け入れ体制を整えることで少しずつ改善していくかもしれません。	

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 10 教職員の資質・指導力の向上

施策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

- ④⑤大学教授招聘による質の高い校内研修の実施
- ④⑥ I C T 機器等の整備、部活動支援員の配置

令和5年度重点的取組

施策	(2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
主な具体策	④⑤大学教授招聘による質の高い校内研修の実施
目的・目標	各学校での「教師指導力向上研修」の継続実施により、「対話的な学び」を成立させる聴き合い学び合う授業が展開できるよう校内実践研究の推進と教職員研修の充実を図る。
重点的取組	・各学校において、大学教員等を招聘し教育課題解決に向けた校内研修会を実施することで教員の指導力向上と児童生徒の学力向上を図る。
施策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	④⑥ I C T 機器等の整備、部活動支援員の配置
目的・目標	・教職員の働き方改革の一助として、I C T 機器の活用推進、I C T 支援員や部活動支援員の継続配置等により、業務の改善・軽減を図る。

重点的取組	・ＩＣＴ支援員の継続配置等を通じて、教員のスキル向上を目指し、児童生徒一人一台のタブレットＰＣの有効な活用促進を図る。
-------	---

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のＩＣＴ活用指導力の状況」（できる）	20.9%	22.7%	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種 1 日あたりの平均時間)	(21 年度実測値) 小 1 時間 4 7 分 中 2 時間 3 1 分	(23 年度実測値) 小 1 時間 4 4 分 中 2 時間 1 2 分	小 1 時間 30 分以内 中 2 時間以内

成果 課題等	《成果》 ・大学教授を招聘しての「指導力向上研修会」の実施により、対話的な学びと評価に関する教員の理解が深まり、授業改善が図られている。 ・統合型校務支援システムなど ICT 技術の活用により、事務処理軽減を図っている。 ・時間外勤務は、年々 1 日あたりの平均時間が短くなり、目標値に近づいている。 《課題》 ・ I C T 支援員の継続配置等により授業における I C T 活用が定着し、教員の I C T 活用指導力の向上にもつながっているが、タブレット端末の使用状況に学校間格差が見られることから、その平準化を図る。	
内部評価	A	目標を上回って達成した
	B	目標をほぼ達成した
	C	目標をやや下回った
	D	目標を下回った
外部評価	□専門的な立場から大学教授に指導をしていただくことで新たな指導法に気付いたり、指導力がさらに向上したりし、成果に結びついています。また、町が主導して教師指導力向上研修を運営、実施していることで、5 校の歩調が整い、町全体の力をアップさせていると考えます。 ■教員の I C T 活用指導力の状況の数値が上がっていることは評価できます。今後は使用率や活用率からの視点だけではなく、授業中における活用の質の向上についても策を講じ、具体的な成果が見えるようにしていってほしいと考えます。 ◇統合型校務支援システムの活用により時間外勤務の縮小につながったことは大変喜ばしい。教職員が時間に追われず生きがいを持って働けるよう今後もさらなる負担軽減を期待します。 ◇部活動の外部移行が始まる中で、生徒の活躍も素晴らしい。順調に行われていることの表れのように思います。今後も生徒達が楽しく活躍の場を広げられるよう、無理なく外部移行が行われることを願います。 ◆タブレットの使用状況に学校間格差が見られますが、各々の学校のペースで慎重に取り入れていく方向でもいいように思います。	

凡例 □プラス評価・意見等 ■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等 ◆改善点等の評価・意見

◆基本的方向 1 1 安心して学べる教育環境づくりの推進

施 策

- (1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助、育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実（防災教育）
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- ④⑦ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実
- ④⑧ おおがわら子どもの心のケアハウス事業
- ④⑨ 各種援助・支援等の適正受給及び「学び支援教室」事業の継続
- ⑤⑩ 安全担当主幹、防災主任による学校危機管理マニュアルの整備、防災訓練、体制の確立
- 51 学校だより、ホームページ、緊急メール配信、広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 52 学校施設の老朽化対策と施設安全管理点検等の実施

令和5年度重点的取組

施 策	(1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
主な具体策	④⑦ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実 ④⑧ おおがわら子どもの心のケアハウス事業
目的・目標	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ケアハウス事業を継続し、不登校等に悩む児童生徒、保護者の不安を軽減するとともに、復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	・学校とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、ケアハウス間での連携をさらに密にし、不登校の予防と早期対応を目指す。 ・心のケアハウス事業を継続し、不登校児童生徒への支援の中核となる「教育支援センター化」を進めるとともに、多様な学びの場を提供し、児童生徒の学力の保障を軸とした、学校復帰を目指す。

施 策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	52 学校施設の老朽化対策と施設安全管理点検等の実施
目的・目標	・老朽化した学校施設について、優先順位をつけ改修や長寿命化対策等を行う。
重点的取組	・大河原中学校テニスコート工事及びソフトボール場の防球ネットの設置工事等の環境整備を行う。 ・各小中学校の空調設備設置工事を計画的に行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2022 年度)	達成値 (2023 年度)	目標値 (2027 年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業(人件費 8/10)により継続	県補助事業(人件費 7/10)により継続	町独自財源による継続実施

2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 2.16% 中 6.33% (R5.3月末)	小 3.67% 中 7.05% (R6.3月末)	小 1%以下 中 3%以下
3	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」(各学校のよくあてはまる等の項目)	38.1%	42.8%	45%
4	2027年度までに建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施 (該当施設…金小校舎・体育館、南小校舎・体育館、大中校舎、金中校舎の計6)	R4:大中体育館増改築外事業	実績なし	2/6施設

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none">子どもの心のケアハウスの認知度が上がり、利用者が増加した。今後も周知を図り、学校と連携しながら、児童生徒が学びを継続する仕組みを整えていく。老朽化した大河原中学校 屋内運動場の改築に伴い撤去したテニスコートの再整備を実施した。また、老朽化していた大河原中学校ソフトボール防球ネットの更新を行った。老朽化により外壁の剥離が進行している金ヶ瀬小学校 校舎及び屋内運動場について、外壁改修のための設計・調査を実施した。熱中症対策のため、空調設備が設置されていない金ヶ瀬中学校 理科室へ空調設備の設置を行った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none">小学生の不登校児童数が大きく増加した。対話的な学びの授業づくりを軸とした魅力的な学校づくりを進めて、不登校の未然防止に努めるとともに、不登校の状況にある児童生徒が、学びを継続することができる仕組みを整えていく。学校施設は老朽化が進行しており、今後大規模改修や長寿命化改修を実施する必要があるため、庁内の関係課と財源等の調整を図る必要がある。		
内部評価	A	目標を上回って達成した	C
	B	目標をほぼ達成した	
	C	目標をやや下回った	
	D	目標を下回った	
外部評価	<p>□子どもの心のケアハウス利用者が増加しているのは、関係者の工夫や努力のおかげです。小・中学校、県教委、教育事務所、教育委員会関係部署等の関係機関の方々が一堂に会した定期的な打合せや情報交換が継続的に行われてきたことも成果の大きな要因です。今後も継続してほしいと考えます。</p> <p>□大河原中学校のテニスコート整備、防球ネットの整備等により、生徒の教育環境が大きく改善され、生徒も意欲的に活動していると思います。今後も他の施設整備に向けて実施してほしいと考えます。</p> <p>■不登校児童生徒が増加傾向にあるのは残念ですが、学校に行けない児童生徒への支援が昨今充実し始めていることを考慮すれば、数値も柔軟な視点で見る必要があると考えます。しかし、学校現場とすれば、不登校児童生徒を一人でも減らすことが目的であり、その対策の柱は、「授業づくり」です。基本的方向8の「確かな学力の育成」の取組と関連させ、不登校の大きな（ひとつの）要因である学習の遅れをできるだけ縮小する取組が必要だと考えます。</p>		
B			

	<p>■不登校児童生徒の学習を保障するとともに、安心して再登校できるようにするために、ＩＣＴを活用した学習の保障とオンラインで使った学級とのつながりの構築をさらに充実させてほしい。</p> <p>◇不登校の子供を持つ親の会「ほっとタイム」を年５回実施できたのは素晴らしいです。同じような悩みを持つ親同士が交流できる場があることは大変意味のあることです。今後も継続して親子の心に寄り添った会になることを期待します。</p> <p>◇心のケアハウスの利用者増加は大変意味のあることです。学校に行けない子供が、家庭以外の場所で学び、人と関われる環境があるのは素晴らしいことです。</p> <p>◆不登校児童数の増加について、「学校に来ない」ことに着目するのではなく、どのように学びを続けていくかを考えることが大切のように思います。ＩＣＴの活用も踏まえ、様々な方法で子供と親の心の支えになるような取り組みに期待します。</p>
--	---

凡例

□プラス評価・意見等

■改善点等の評価・意見

◇プラス評価・意見等

◆改善点等の評価・意見